

2005年8月3日

伊賀上野地区治水対策 ダム案より代替案
～川上ダムの集水域比率11%の欠陥は決定的～

千代延 明憲

治水対策としてダムを論じる時、当該河川の流域面積に対するダムの集水面積の比率がどうかという議論は常にされてきた。

しかし、ダム案か代替案かの選択の最終段階で、ダムの集水面積の比率というファクターが大きなウエイトで真剣に考えられているであろうか。

国土交通省は先般発表の「方針」の中で、上野盆地の治水対策としてダム案（川上ダム建設、上野遊水地整備及び河道掘削）を採用し、最有力代替案（上野遊水地の越流構造の見直し、新遊水地一箇所の増設及び河道掘削）を退けた。

理由は次の通りである。ダム建設計画の持上がった当初から地元には結果的に“戦後最大洪水である昭和28年13号台風洪水（実績）の1.1倍の治水安全度達成”を約束してきた。最有力代替案は、確かに“昭和28年13号台風洪水（実績）には対応可能”であるが、地元で約束したその1.1倍の治水安全度は確保できないことから、代替案は採用できないとのことである。

ここで振り返って川上ダムの集水面積の比率をみてみたい。川上ダムの集水面積は54.7km²で、岩倉峡入口の流域面積の11%に過ぎない。このことはとりもなおさず、川上ダム集水域に想定した降雨があれば、それはダムに期待した通りの効果がでてハッピーである。

しかし、降雨が川上ダム集水域をはずれて他の岩倉峡入口の集水域に集中した場合どうなるであろうか。戦後最大洪水の1.1倍の効果どころか、0.9倍、0.7倍の効果しか発揮されないことも考えられる。最近の傾向である雨の偏った降り方が顕著になれば、期待した効果がでないことは決して稀ではなくなり、ダムの効果は限定的という評価しかできない。現に昭和28年13号台風時には、服部川及び柘植川流域に雨が偏って降ったといわれており、仮に当時川上ダムがあったとしても治水にどれほどの効果があったか。今後についても同様である。

大洪水で甚大な被害が出た後、「戦後最大洪水の1.1倍にも対応できるダムを建設して備えていたが、運悪くダムの集水域以外に雨が集中して降ったため、ダムに期待した効果が発現されなかった。そのため被害が甚大になった。」と説明を聞くほど惨めなことはないと思う。

一方最有力代替案であれば、岩倉峡入口の集水域のどこに降雨があっても、常に期待した効果の100%近くが発揮される。

河川管理者は、ダム建設を完遂して当初から地元で約束した治水安全度を実現したいとしているが、約束した治水安全度実現の確率が低い故、治水安全度達成の約束を守るという

よりもダム建設の約束を守るという方に大きくウエイトが掛かっているように思えてならない。

河川管理者は、『ダム案は戦後最大洪水の1.1倍の効果まで期待できるが、その実現の確率は高くなく運試的要素がある。一方最有力代替案は、治水対策としては戦後最大洪水にまで対応できるというのが最大であるが、効果の発現確率は100%近い。従って、ダムのない最有力代替案を採用した。』と方針をだしていれば、論理は明快であり、実効性の高い治水対策が実現できるのであるが、と思えて残念でならない。

代替案を採用するとした場合、治水効果の発現時期が大幅に遅れるという大きな問題がある。これに対しては、私は次のように考える。

国の予算配分のあり方を改革することで、遅れを大きく挽回していただきたい。すなわち、ダム建設事業に関しては工事の性格上予算が集中的に配分されている。しかし、河道掘削、河道拡幅、堤防補強等の河川事業の予算は、一定枠の中で各所に分散されているのが実態である。

この現実を改めることは困難であることは容易に想像できる。しかし、「ダムは、他に経済的にも実行可能で有効な方法がない場合において、ダム建設に伴う社会環境、自然環境への影響について、その軽減策も含めて、他の河川事業にもまして、より慎重に検討した上で、妥当と判断される場合に実施する。」として、ダム代替案重視の姿勢を強く打ち出しているのであるから、当然のことながらダム代替案実施に関しては、少なくともダムと同等の予算措置ができるよう、改革を行っていただきたい。これにより、効果発現の時期は早められる。

予算措置は自然現象ではない。人為の世界である。長期にわたって地元住民、地元関係自治体等を翻弄してきた償いの意も含め、上記改革を真摯に断行すべきである。

また、利水については、三重県の利水が0.3m³/s程度あり、どうしてもこれだけの量の取水が必要ということであれば、これは必ずしも川上ダムからでなくとも、隣の比奈知ダムからの取水の可能性は十分ある。他にも検討すべき代替案もある。利水代替案をもっと真剣に検討すれば、川上ダムは利水面からも不要という答えがえられることは間違いない。要はその気になるか否かである

なお、論理をシンプルにするため、代替案は最有力案と称して実用的な案は一つしかないのごとく述べてきたが、さらに工夫を重ねれば経済的に優れていて治水効果も確実な案は他にも考えられることを付言して、私の意見を終わりにする。